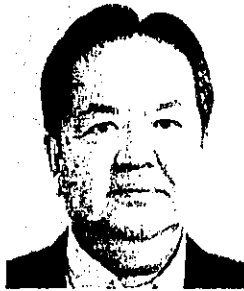


# 河北新報

『2024東北経済展望・不動産』

2024年（令和6年）1月4日（木）



アセットブレインズ  
仙台ネットワーク

佐々木正之

事務局長

不動産

## 地元ビル空室増懸念

2023年は足踏みしていた仙台市都心部の再開発が、目に見えて動き出した1年だった。相次ぐ再開発

は、新しいビルは埋まっても地元資本の古い物件は空室が増える恐れがある。

は都市力を高めるが、テナントが埋まるかどうかは別話。23年度だけでオフィスビルが8棟建設され、貸床面積は約6万平方メートル増える。24年3月の空き室率が重要なポイントになる。

立地企業の母数を大きく増やさずにビルの新築が続

首都圏の大学のサテライトキャンパスや、省庁機能の誘致なども検討して仙台の経済力を高めないと、地元ビルの経営は厳しさを増す。行政は建て替え支援の在り方を含め、都心再構築の政策を再検討する時期にあるだろう。